

大麦栽培管理情報(第5号)

大麦の生育の進みは去年よりやや遅く、平坦地における出穂期は早いところで4月15日頃、平均で4月22日頃と予想されます。

地区や圃場によって、生育の進みに1週間程度の差がありますので、赤かび病の防除は出穂状況を必ず確認し、穂揃期(開花始め)とその7日後の適期防除を徹底しましょう。

1 赤かび病の防除

農産物検査規格における「赤かび粒」の混入限度は0.0%と厳しい基準となっています。赤かび粒の発生防止のため、2回の赤かび病防除を確実に実施しましょう。

また、防除適期に降雨が多い場合であっても、晴れ間を利用して確実に防除をしましょう。

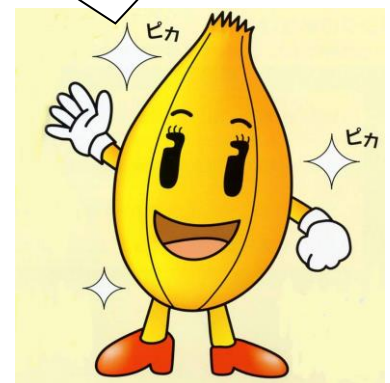
さらに、防除効果を高め、かつ住宅地や周辺作物等への農薬飛散を防止するため、風の弱い時間帯に散布しましょう。

《防除時期等の目安》

防除時期 薬剤体系	1回目	2回目
	穂揃期(開花始め) 4月25日頃	1回目の7日後 5月2日頃
粉剤	トップジンM粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)注	ワークアップ粉剤 DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液剤	トップジンM水和剤 1,000倍・150ℓ/10a (収穫30日前まで)注	ワークアップフロアブル 2,000倍・150ℓ/10a (収穫7日前まで)

注:トップジンM粉剤DL及び同水和剤は、出穂期以降1回しか使えません。

赤かび病の防除は
適期を逃さず行う
ことが重要だよ!!



2 排水対策の徹底

大麦は湿害に弱く、排水が悪い圃場では登熟不良となって収量・品質の低下につながります。用水路や隣接田から水が浸透しないよう水口や畦畔からの漏水状況を点検するなど、最後まで排水対策を徹底しましょう。